

## 第2回奥の細道むすびの地周辺整備構想懇談会における委員意見

委員	意見
<p>情報科学芸術大学院 大学学長 横山 正</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大垣に来て8年になる。住みやすくて良いまちで、大垣が大好きだ。ただ、良いなと思う景観ポイントが少ない。今度のこの場所が模範になって、それがまち全体に広がると良い。</li> <li>・ このプロジェクトは一角だけを考えるのではなく、市の方で都市計画をきちんと考えて欲しい。この一体を整備した後に、どうしていくのかという方針を考えて欲しい。 例えば、水門川の両側に細い緑地があるが、少しゴチャゴチャしているのもう少しキレイにならないか。そうした部分も、これを機会に整備して欲しい。</li> <li>・ 今回の土地は水門川に面しているが、水門川との間が道路で切れている。今度の敷地と水門川がつながって、水門川の片側だけを自動車道路にして、片側を遊歩道にするといったことも考えてもらう。昔の船を復活するということを考えると、川との直接のつながりができるスペースができるとう良い。</li> </ul>
<p>大垣市文化連盟会長 大垣市観光協会会長 田中 良幸</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大垣市21世紀ビジョン懇談会が東京で行われ、外から見た大垣を聞きました。芭蕉元禄、芭蕉豆腐、芭蕉いなり寿司などいろいろ出ましたが、豆腐やいなり寿司が芭蕉とどのような関係があるのかという感じであった。</li> <li>・ 大垣という地名はいかにも知られていない。どうアピールするかが問題である。大醒榎や小原鉄心といっても、歴史的にも文化的にもまだまだ知名度が非常に低い。</li> <li>・ 船町を大きくアピールするためには、まず大垣と芭蕉の関わりをアピールしないと、構想倒れになってしまうのではないかという危惧している。なぜ芭蕉が大垣をむすびの地にしたかも含めてアピールすることが大事だ。</li> <li>・ 守屋さんの家の保存をどうするかも大事だ。</li> </ul>

委員	意見
大垣市中心市街地活性化協議会準備会会長 金森 勤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回の船町の構想は、物販ではなく、奥の細道に特化することが大事。物販はショッピングセンターもできていて、現状では難しい。</li> <li>・ 市民あるいは大垣を訪れる人が、2時間～3時間滞在して帰る。行ってきて良かったと思われないと、リピーターも増えない。</li> <li>・ 奥の細道に関わることは、すべて船町に集めるのも一つの手だ。ただ、それだけでは市外から来た人には物足りない。奥の細道の芭蕉元禄時代から明治維新までの大垣の先賢を再現する。それによって滞在できる場ができる。</li> <li>・ 見に来てもらうためには、差別化が一番だと思います。どうせ作るならハードもソフトも含めて日本唯一のものだ。大垣で全国的に有名なものは、水の都と奥の細道だから、特化して、他にないものを作るべきだ。</li> </ul>
大垣市商店街振興組合連合会理事長 北野 茂樹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大垣らしさをもっと出さないとだめだ。記念館もあちこちにあるので、立派なものを作ってもなかなか入ってくれない。</li> <li>・ 昔、高橋から船に乗って、桑名へ行ったりした。海水浴へ行った記憶もある。これが一生忘れられない。できることなら船着場などを再現してもらう。</li> <li>・ レストランやお土産コーナーは、回遊性を持たせて、まちの中を歩いてもらえばいい。</li> <li>・ 海運、水運を再現するといった思い切ったことをしないと、大垣に目を向けてもらえない。</li> </ul>
大垣市連合自治会連絡協議会副会長 大橋 庄一郎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国に、芭蕉の記念館は、深川、黒羽、須賀川、尾花沢などがあり、東北に多い。行程で言うと三分の一に留まっている。奥羽の出羽三山から大垣までは句碑があっても、これという建物はな。ですから、大垣で立派な建物を作ったら必ず人は集まる。全国から集める核として十分なものになる。</li> <li>・ 5か所の記念館を見て、良いところを引き抜き、それらにないところを古風な感じで作ると良い。</li> <li>・ 小原鉄心とか先賢などいろいろやると訳が分からなくなるので、とりあえず芭蕉や奥の細道に絞って、立派に作ったら成功する。</li> <li>・ 芭蕉蛤塚忌全国俳句大会は、ややこしい名前がついている。建物は、奥の細道記念館など、分かりやすく親しみやすい名前にして欲しい。</li> <li>・ 外から見える場所に自噴水を作って、せせらぎを作ることも大事だ。</li> </ul>

委員	意見
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3部屋ぐらい俳句の考える部屋を作ってもらおう。句会ができるような部屋を作ってもらおうと良い。</li> <li>・ 土産物屋や食堂は民間経営でないと失敗する。建物の前に自然に発生するのが理想ですが、最初のうちは考慮してもらわないといけないと思います。</li> <li>・ 総合福祉会館を芭蕉記念館にするのは全然ダメだ。あれでは誰も来ない。それらしい風格があるものにして欲しい。</li> </ul>
<p>大垣市連合婦人会書記 谷口 いつゑ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本一立派な俳句会館を作って欲しい。付帯施設は後から徐々に作ればよい。</li> <li>・ 生活の場でもあるので、幼児からシニアまで憩えるようにして欲しい。水を見て、鯉に餌をやり、アヒルがいて、鳥が飛んでくるような雰囲気にしたなら、俳句やむすびの地を自然に学ぶようになる。</li> </ul>
<p>大垣市文化財保護協会 会長 矢橋 和江</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化財保護協会として、大醒榭が関心だと言ったが、きちんと移築できそうだという感じでほっとしている。</li> <li>・ 外から来た人の目を大事にした計画にして欲しいということを行ったが、その点についても、今回も若い大学生が参加しており、学生さんからも同様の意見があり、意を強くした。</li> <li>・ 駐車場を非常に近いところに作ると、車で降りてそこだけ見て大垣は分かったという感じで帰る人があると残念である。大垣城、守屋多々志美術館、水門川沿いを歩いてもらって、大垣と水についても少し分かってもらおう。歩かざるを得ないことで、大垣を知ってもらおうということを、むすびの地という場所だけでなく、もう少し広い範囲で考えてもらおうと良い。</li> <li>・ 予定地東側、水門川西側の道路についてだが、一つの信号を外すために、抜け道として利用されているようだ。車の乗り入れを禁止し、水門川の近くまで広場として利用することはできないか。</li> </ul>
<p>まちづくり工房大垣・ 歴史観光グループ代表 疋田 正</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国でここだけにしかないむすびの地ということで、特化した施設を作って欲しい。それ以外のものを周辺にばらまいて、観光客に歩いてもらおう。そのことによって、もっと大垣のまちが分かってもらえるし、その途中で土産も買うということで、観光客にまちを歩いてもらうことが大事だ。周辺の活性化という意味からも、施設を外側に設けることをお願いしたい。</li> </ul>

委員	意見
岐阜経済大学学生 蟻塚 正樹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全部を入れようとする、一つひとつのレベルが落ちる。食べて、見て、回遊してもらって、イベントもやると、言い出したらきりが無い。観光客にとって見れば、なんだと思われがちなものが出てしまうかもしれない。ある程度限ったものをつくる必要がある。その中で、観光客に見てもらいやすいものとしては、芭蕉、水門川の水である。</li> <li>・ 体験する観光もプログラムとして必要だ。俳句を読むためのスペースを作って、芭蕉つながりで来た人も体験して満足してもらおう。「水の都・大垣」を観光の目的としてきた人には、たらい船のような船をに乗ってもらって水門川を体験するなど、常時体験してもらえるものを作ることも必要だ。記念館にしても、何にしても見るだけでは不足だ。</li> <li>・ 市民がリピーターになる確率が高いので、その辺りも考えて欲しい。</li> </ul>
岐阜経済大学学生 堀 あゆ美	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大垣は外から来にくい場所ではない。名古屋から30分くらいだ。アクセスが悪い場所ではない。逆に言えば大垣から別の地域に出やすい。アクセスが悪いわけではないので、大垣に留まってもらい、泊まってもらいアクションが必要だ。</li> <li>・ 大垣は水の都だと言われている。随分浸透している。外から来た人からも「水の都だと言われているね。」と言われる。観光パンフレットや広報やインターネットなどいろいろあるが、一番効果があるのは口コミだ。水の都として定着し始めたのなら、次は芭蕉のまちとか、湊のまちという新しいキーワードを大垣と結びつけ、口コミを中心に広げていくことが大切だ。</li> <li>・ 地元に住んでいる人たちを、もっと大垣に注目させるために構想を練るのか、外から観光で大垣を訪れる人を増やすための一つの手段として構想を練るのかは、一緒になる部分もあるし、違う部分も出てくる。理想は、日頃から地元の人がある場所を活用して、年間を通じて観光客が訪れることだ。理想に近づけるために、地元の人に関心を向けることから始めるのか、観光客を増やすのかという目的の部分はきちんと決めたほうが良い。</li> </ul>

委員	意見
大垣女子短期大学学生 小西 美那	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回、学習の施設になれば良いと発言した。小中学生は社会見学や総合学習などで来てくれるが、高校生や大学生の出入りの向上が課題のようだ。</li> <li>・ 若い人はマナーが悪い。道にガムを捨てたり、ペットボトルを捨てたりする。公共の公園でも一人で占領したりする光景も目にする。そういうことが起きないか少し心配だ。フリースペースがどういう場所になるか分からないが、広場になるのであれば、暴走族などの溜まり場になるのではないか。その辺りも考えて、計画して欲しい。</li> </ul>
情報科学芸術大学院大学学生 津田 志保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年の4月に大垣へ引っ越してきた。大垣駅からむすびの地まで歩いて欲しいということは、観光を目指すまちとしてはありだと思うが、駅から歩くと結構距離がある。丸一日時間があれば、地図を持って歩くことはあると思うが、西美濃に観光に来る人は大垣だけでなく、他も見て周りたい人がいる。そうした人にとって、駅にレンタサイクルがあると良いと思う。歩いていくのも良いですが、駅からここまで歩くと言うのは、シャッター通りを見て歩くことになる。回遊できる景観がずっと続いていたら良いのだが、そうではない感じなので、自転車に乗って、パッパッと見られるような考えも必要だ。</li> <li>・ 大垣に来てやっと芭蕉のまちだと知った。どれくらい芭蕉ファンの方が大垣に来ているのか分からないが、大垣・芭蕉というつながりよりもむしろ、湊町、水の都市というつながりの方が強いのではないかという印象がある。</li> <li>・ 船町の湊の再現という話があった。「陸の湊とは何？」という感じだったが、今日初めて写真で見てそういう感じなのかと理解した。もしかすると若い人たちは、あそこで船に乗って桑名まで下ろうということになるかもしれない。</li> </ul>
岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー学生 菅沼 聖	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大垣東高校に通っていた。通学で駅からの往復だけでなく、奥の細道が好きだったので、船町地区を歩いて大垣城で読書をして帰るといふ、観光客ともローカルともいえない立場であった。</li> <li>・ 利用者には観光客と生活している人の二つに大別できる。利用する用途や時間帯、こちらが提供するものもいろいろ違うので、そういうことを考え計画を進めて欲しい。</li> </ul>

委員	意見
<p>興文連合自治会長 松岡 昌男</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芭蕉文化の継承ということから言うと、やはり、記念館は市民としてどうしてもお願いしたい。しかし、仏作って魂入れずで、せっかく記念館を作っても、偽物ばかりではいけない。本物は木因との往復書簡だけである。たとえ一つでも本物が手に入らないか。天理教の美術館にあるらしいので、その中から一つでも譲ってもらえないか。</li> <li>・ 先賢は他の市の建物で実施したら良い。作るとなると、子孫を探して遺品を持ってこないと意味がない。ただ写真を飾っているだけでは意味がない。</li> <li>・ 小原鉄心の別荘は、それほど費用がかからないので良い。</li> <li>・ 水門川の川底が年々上がってきている。藻をどれだけ掃除しても出てくる。何とかしないとイケない。</li> </ul>
<p>西連合自治会長 北村 正章</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 倉敷へ行った。見る、食べる、買う、泊まるという4つのポイントを倉敷は持っている。そうしたのもも必要だ。 倉敷では、車椅子もベビーカーも用意されていた。そこまで配慮されているのは珍しかった。</li> <li>・ 大垣全体の構想というよりも、限られたこの地域の構想ということについて話していかないと、藪に入る。</li> <li>・ 前回、一番欲しいのは記念館だと言った。今回付け加えるなら、船町川の復元である。仮に小さなスペースでも良いから、敷地内に船町川を整備して、遊歩道なども作って、自噴水も備えて、市民が憩える場所があっても良い。</li> <li>・ 津山へも行った。津山城址のすぐ近くに衆楽園という立派な庭園があった。亀が泳いでいた。大垣の亀池もほとんど忘れられていたが、そうしたものがあっても、来訪者を慰めてくれる。</li> <li>・ 東北へ行くと、奥の細道は「鼠が関」までで、従って大垣は奥の細道ではないと大きな声で言われる。芭蕉が結んだというのは、行く春から行く秋までの中で、芭蕉の繊細な考え方で作ったのだが、東北の人に言わせると鼠が関まで、こちらは「越の細道」だと本に堂々と書く。あまり大上段に構えずに、奥の細道をここで結んだというぐらいで良いのではないか。</li> <li>・ 予定地東側の道路は生活道路として利用されており、簡単には通行禁止できるものではない。</li> <li>・ 倉敷は道路と水面が非常に近い。大垣は、5～6メートルも離れている。</li> </ul>

委員	意見
南連合自治会長 小林 晃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先日、倉敷へ行った。大垣の場合、桜だけで水門川は終わっている。倉敷はいろんな木が植えられていて、四季の花が楽しめる。柳も流暢であった。</li> <li>・ 今の福祉会館のところで止めてしまうのではなく、もう少し回遊できる道路を作ったほうが良い。建物を見てもらうのも結構だが、周囲の状況も見てもらいたい。</li> </ul>
船町湊まちづくり 株式会社代表取締役 三輪 高史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回の土地についてどうするかということと、全体をどうするかを分けて話をしないと、なかなか見えてこない。だいたいのことがまとまれば、すべてのことを具現化しなくてもいい。</li> <li>・ 総合福祉会館をどうするかは大きな問題だ。あれは芭蕉記念館でも良い。</li> <li>・ 私の会社の酒蔵は3階建である。日本全国を見ても3階建ての酒蔵はない。1階が水についてしまうため、ものすごい梁の上に樽を載せて、2階に貯蔵した。これは大垣ならではの知恵だ。</li> <li>・ 施設を作るのも良いが、井戸からがんがん水が出るようにすれば良い。先日も広島から蔵へ見学に来た。自噴水を見てビックリするので、この場所でも具現化して欲しい。</li> <li>・ この会議に参加していない人がたくさんいる。観光協会、ボランティアガイド、NPO、10年前に比べると、すごいメンバーがまちづくりに関わっている。むすびの地周辺をきちんと整備してもらえれば、今関わっている人たちが必ず動き出す。商売人は、儲かると思えば絶対出てくる。</li> <li>・ 京都などはとんでもないところに車を止めさせられる。駐車場の話も、後から考えれば良い。</li> <li>・ 守屋さんの建物を何とかしたいという思いは強いですが、守屋多々志美術館の話も含めて、最終的には解決されるものと思う。守屋さんの絵をいただいたときも、美術館を作るという話がありましたが、これも構想としては必要でしょうが、今回の話に入れ込む必要はない。小原鉄心も別である。とりあえずこの一角の構想をまとめて、スタートして欲しい。</li> <li>・ 9代続いた谷家が、この構想予定地にあったということで、谷木因に関しても、何かこの場所でできたら良い。</li> <li>・ 予定地東側の道路は、総合福祉会館の前のように、いつでも通れるのだけれども、自動車の通行に向けた道路でないという整備もある。</li> </ul>